

## 各科目の到達目標、評価、内容

## 1 職務の理解（2時間）

## （1）到達目標・評価の基準

## ア ねらい

- ・ 介護保険制度を担う一員として、制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、理解している。
- ・ 従事者がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか理解し、以降の研修に取り組めるようになる。

## イ 修了時の評価ポイント

- ・ 介護保険制度、サービス利用の流れ、仕事内容の概要について理解している。

## （2）内容例

## ア 指導の視点

- ・ 研修課程全体と各研修科目の関連性の全体像をイメージし、学習できるようにする。
- ・ 仕事内容を出来る限り具体的に理解させる。

## イ 内容

※〔 〕は本研修項目に対応する「大阪府介護職員初任者研修事業実施要領」の研修科目番号・項目番号を参考に記載する。

（ア）介護保険制度〔（4）①〕

（イ）多様なサービスの理解〔（1）①〕

●介護保険制度の基本的仕組み

●介護給付、●予防給付、●介護予防・生活支援サービス事業

（ウ）仕事内容や働く現場の理解〔（1）②〕

（エ）介護職の役割、専門性と多職種との連携〔（3）①〕

●サービス提供に至るまでの流れ（要介護・要支援認定、基本チェックリスト、地域包括支援センター、介護支援専門員、ケアプラン）

●仕事内容や働く現場の理解（訪問型サービス）

## 2 老化の理解（1時間）

### （1）到達目標・評価の基準

#### ア ねらい

- ・ 老化に伴う心身の変化や疾病について理解することの重要性に気付き、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

#### イ 修了時の評価ポイント

- ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について理解している。
- ・ 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点について理解している。

### （2）内容例

#### ア 指導の視点

- ・ 高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において知識を身に付けることの必要性への気付きを促す。

#### イ 内容

##### （ア）老化に伴うこころとからだの変化と日常〔（6）①〕

- 身体的機能の変化と日常生活への影響
- 精神的機能の変化と日常生活への影響

##### （イ）高齢者と健康〔（6）②〕

- 高齢者の疾病（機能低下）と日常生活上の留意点
- 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点

### 3 認知症の理解（2時間）

#### （1）到達目標・評価の基準

##### ア ねらい

- ・ 介護において認知症を理解することの必要性に気付き、認知症の利用者に対応する時の原則を理解している。

##### イ 修了時の評価ポイント

- ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）及びそれに影響する要因を理解している。
- ・ 認知症の人への対応の基本姿勢と対応のポイントについて理解している。

#### （2）内容例

##### ア 指導の視点

- ・ 認知症の本人・家族の気持ちについての学びを通じて、介護において認知症を理解することの必要性への気付きを促す。

##### イ 内容

（ア）認知症を取り巻く状況〔（7）①〕

（イ）医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理〔（7）②〕

（ウ）認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活〔（7）③〕

（エ）家族への支援〔（7）④〕

- ・ 認知症サポーターテキストを使用し説明する。  
（講師はキャラバン・メイトが行い、受講者には認知症サポーターとしてオレンジリングを交付する。）

## 4 介護におけるコミュニケーション（1時間）

### （1）到達目標・評価の基準

#### ア ねらい

- ・ 高齢者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが求められていることを認識し、最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

#### イ 修了時の評価ポイント

- ・ 共感や傾聴など基本的なコミュニケーションのポイントについて理解している。
- ・ 障がいなど利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの留意点を理解している。

### （2）内容例

#### ア 指導の視点

- ・ コミュニケーションにおいて、具体的な事例等を通じて、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。

#### イ 内容

##### （ア）介護におけるコミュニケーション〔（5）①〕

##### ●利用者・家族とのコミュニケーション

（相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、  
利用者の思いを把握する（傾聴）、意欲低下の原因を考える、  
利用者の感情に共感する、家族の心理を理解する、信頼関係の形成）

##### ●利用者の障がい等（※）の状況・状態に応じたコミュニケーション

※ 視力・聴力の障がい、失語症、構音障がい、認知症

## 5 介護における尊厳の保持、介護の基本（3時間）

### （1）到達目標・評価の基準

#### ア ねらい

- ・ 利用者の尊厳のある暮らしを支える職業であることを自覚し、人権と尊厳の保持、自立支援というサービス提供にあたっての基本的な視点を理解している。
- ・ 職務におけるリスクとその対応策の内、重要なものを理解している。

#### イ 修了時の評価ポイント

- ・ 介護の目標や展開について、尊厳の保持、プライバシーの保護、自立支援の考え方を理解している。
- ・ 生活支援の場では主要なリスクを理解している。
- ・ 介護職の健康管理の主要な留意点等を理解している。

### （2）内容例

#### ア 指導の視点

- ・ 利用者の尊厳、自立支援という概念に対する気付きを促す。
- ・ 介護におけるリスクに気付き、緊急対応の重要性を理解するとともに、場面によってはそれに一人では対応しようとせず、責任者等と連携することが重要であると実感できるように促す。

#### イ 内容

##### （ア）人権啓発に係る基礎知識〔（2）③〕

- 人権について

##### （イ）人権と尊厳を支える介護〔（2）①〕

##### 介護職の職業倫理〔（3）②〕

- 個人としての尊重、●尊厳の保持、●利用者のプライバシーの保護
- QOLの考え方、●ノーマライゼーションの考え方

##### （ウ）自立に向けた介護〔（2）②〕

- 介護における自立支援（残存能力の活用、意欲を高める介護、介護予防）

##### （エ）介護における安全の確保とリスクマネジメント〔（3）③〕

- 安全対策、感染対策（リスクマネジメント、事故報告、情報の共有）、
- ※ 生活援助に関連する対策を例示

##### （オ）介護職の安全〔（3）④〕

- 介護職の健康管理（ストレスマネジメント、感染症対策）

## 6 生活支援技術（2時間）

### （1）到達目標・評価の基準

#### ア ねらい

- ・ 尊厳を保持し、その人の自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅、地域等での生活を支える技術や知識を習得する。

#### イ 修了時の評価ポイント

- ・ 生活（家事）援助の機能と基本的原則について理解している。

### （2）内容例

#### ア 指導の視点

- ・ サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。

#### イ 内容

##### （ア）生活と家事〔(9) イ①〕

- 家事援助に関する基礎的知識と生活支援（生活歴・価値観の理解、生活援助のポイント（調理、洗濯、掃除、買物等））
- 介護保険の対象外の支援（衣替え、庭掃除等事例紹介）  
※ 国通知に基づき説明を行う。

## 7 修了評価と振り返り（1時間）

### （1）到達目標・評価の基準

#### ア ねらい

- ・ 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

### （2）内容例

#### ア 指導の視点

- ・ 研修で学んだ知識の要点を確認するとともに、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。

#### イ 内容

##### （ア）修了評価課題〔（10）①〕

- ・ 記名により実施し、終了後に用紙を回収する。
- ・ 各科目から選択式による問題（※）を出題し、基礎的な理解を確認する。  
※ 複数の選択肢から正しいものを選ぶ、あるいは誤ったものを選ぶなどの問題
- ・ 解答を示し、ポイントを解説する。
- ・ 修了の要件は市町村が設定  
（例）6割以上の得点。  
6割以上の得点。ただし、テキストの確認は可能。

##### （イ）振り返り（アンケート）

- ・ 記名により実施し、終了後回収する。（提出が修了の要件）  
今回の研修の理解度評価（5段階評価）  
今回の研修で学んだこと  
今後継続して学ぶべきこと  
研修についての自由意見（ない場合は記載不要）

##### （ウ）オリエンテーション

- ・ サービス提供事業者とのマッチングのため関係機関等への登録を勧める等を行う。